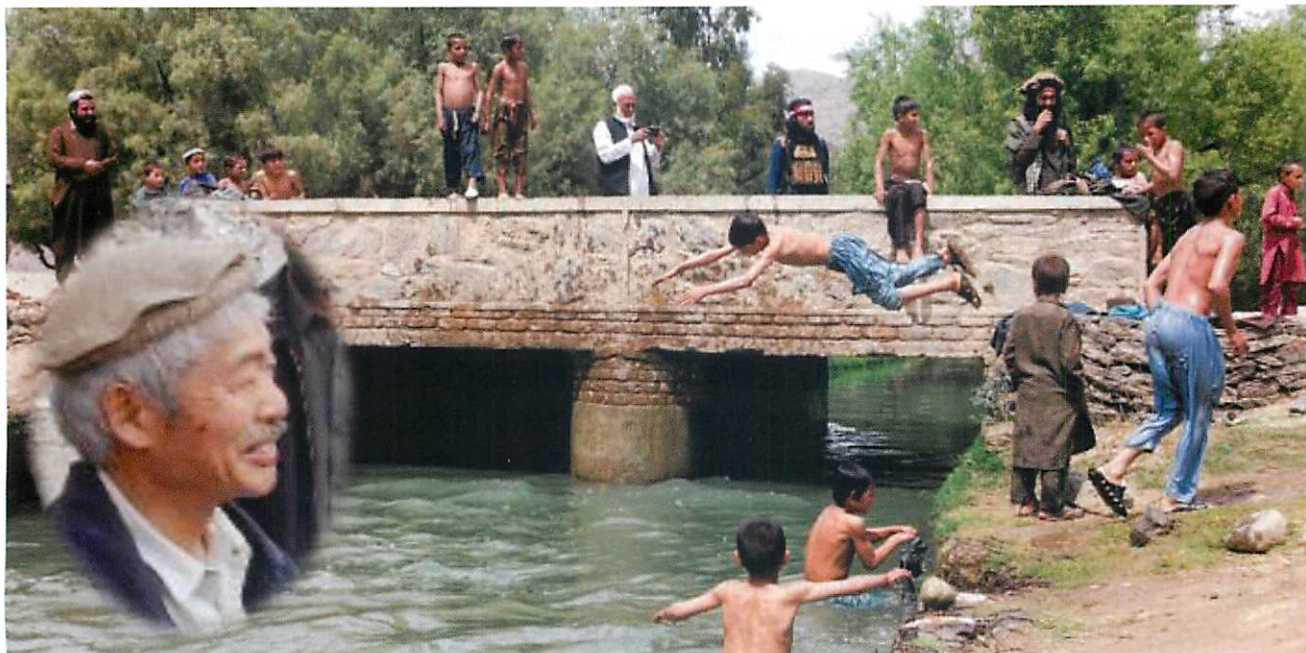


中村哲の遺志を受け継ぎ PMS は歩む 現地の状況を知り課題を探ろう



講演とパネル・ディスカッション

日時:2023年11月5日(日) 午後2時より(1時半開場)

場所:天王寺区民センター(地下鉄谷町線「四天王寺前夕陽丘」2号出口北へ徒歩3分)

講演:PMS 技術者支援チーム理事・大和則夫氏

討論:元現地ワーカー・蓮岡修氏、西山浩司氏、神代大輔氏

司会・斉藤貞三郎氏(毎日新聞社)

入場料:無料(ペシャワール会への募金千円ほどをお願い申し上げます)

パキスタン・アフガニスタンで35年以上ものあいだ、医療・灌漑などの活動を続けてきた中村哲医師。2019年12月に彼が非業の死を遂げてから4年近くが経ちました。PMS(ピース・ジャパン・メディカルサービス)はその志を受け継ぎ、現地での活動を続けています。中村哲が築いた灌漑設備を現地で守り抜き、新しい用水路も作りつつあります。

現地に出掛けて技術者を支援してきた大和則夫氏が、その現状を報告します。また、初期の段階から中村哲に寄り添い活動してきたワーカーたちが、司会の斉藤貞三郎氏と共に過去を振り返り、今後の支援の展望を語ります。

どうか、皆さまのご参加をお待ちしています。

主催:ペシャワール会大阪(連絡先:090-3164-8068 松井)

講師 & パネルディスカッション登壇者紹介

大和則夫氏 : ペシャワール会技術支援チーム・理事。

(おおわのりお) 元(株)東京建設コンサルタント九州支社支社長。

2019年6月、リタイア間近に、建設コンサルタンツ協会九州支部創立50周年記念式典で中村医師の講演を聴き、その知識の豊かさ、人間愛の深さそして卓越した実行力に衝撃的な感動を覚え、リタイア後に出来ることを模索。翌年2月、「PMSが河川や灌漑の技術者を探している」との報に接し、応募。

3月よりペシャワール会技術アドバイザー・理事として参画。

2022年12月・2023年7月アフガニスタンに渡航。指導に携わる。

斉藤貞三郎氏 : 毎日新聞社大阪本社編集局記者。

(さいとうていざぶろう) 1987年毎日新聞社入社、岡山支局長、編集局学芸部長、編集局次長、制作技術局長を歴任。1994年取材先の「長島愛生園」(ハンセン病療養施設)で入所者の男性に「ダラエヌールへの道」を勧められ、中村医師のことを知り、八尾徳洲会病院での現地報告会に参加し交流が始まる。1998年にはペシャワールの基地病院の開院式を取材。また、近畿地方での中村医師の講演会に同行するなどして親交を深めた。

蓮岡 修氏 : 1999~2002年・2005~2006年PMSのワーカーとして活動。

(はすおかおさむ) 現地を取材中に中村医師に出会う。以後、空爆や早魃が進む中、井戸掘り、食糧配付、物品購入、用水路建設事業に携わる。

現在、子どもの本専門店“きんだあらんど”店主、子育て施設の代表。僧侶。

西山浩司氏 : 2007年、大手企業定年退職後、PMSのワーカーとしてアフガニスタンへ渡航。

(にしやまひろし) 炊事・井戸掘り事業に携わる。現在、関西各地で開かれるペシャワール会関連の写真展・講演会の主催メンバーとして、また、助っ人として活躍。

さらに、居住地の学習会の講師やボランティア団体“関西きんじょすくいの会”のメンバーとして活動の幅を広げている。

神代大輔氏 : 2007~2008年PMSのワーカーとしてジャララバード事務所の会計室にて物品購入、スタッフの給与計算、日本からの資金の両替等に携わる。

(くましろだいすけ)

東北の震災後、福島の子供たちを招く“関西きんじょすくいの会”を立ち上げ、毎年夏に保養キャンプを実施している。現在、NPO法人が運営する放課後等デイサービスで児童発達支援管理責任者として勤務。

【PMS 現地ワーカー】

ペシャワール会が各部門(医療・農業・土木・事務等)毎に募集し、応募者の中から面接後、採用。

派遣されたワーカーの総数は2011年までに約90名に上る。

【ペシャワール会】

1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在は中村医師が設立したPMS(平和医療団・日本)のアフガニスタンでの医療活動や灌漑水利事業等の総合的農村復興事業を支援している。